

松江の6公民館

# 農業近代化に尽力 松村豊吉 功績顕彰へ綿栽培

## 児童らに参加呼び掛け



松村 豊吉  
(松村憲樹氏提供)

洋綿の栽培に日本で初めて成功した、松江市ゆかりの松村豊吉(1868〜1959年)の功績を顕彰し、



サンプルの綿を囲んで栽培計画について打ち合わせをするメンバー—松江市堂形町、城西公民館

読者ホットライン

TEL 0852(32)3333  
FAX 0852(32)3520

(平日9時から17時)

豊吉は出雲市出身で、29

綿による地域活性化を目指そうと、市内六つの公民館が中心となって綿栽培の準備を進めている。たゆまぬ研究を重ねて農業の近代化に尽力した豊吉の精神を受け継ぎ、新たな特産化を目指す。

歳だった1896年、北海道庁の技官として道内の稲作全般を担当。寒地で稲が安定して育つ方法を広め「北海道の稲作の父」とたたえられた。結婚後に松江市内に移り住み、綿の栽培方法を約30年にわたって研究。1927年に気温が低く、雨の多い日本では難しいとされた洋綿の栽培に成功した。

豊吉の功績を広めようと、城西公民館(松江市堂形町)の森泰館長(72)が発起人となり、綿の栽培を提案。市中心部の城北、城東、雑賀、白瀧、朝日各公民館に呼び掛け、今年に入り公民館の職員や地元住民ら50人で、里山笑楽校プロジェクトチームを結成した。

寒暖の差が激しく、綿栽培に適した雲南市大東町山王寺で環境問題に取り組み多和田厚さん(63)に協力を依頼。メンバーは多和田さんが所有する10㏊の農地を借り受け、草刈りや畝立てを進め、打ち合わせを重ねている。

計画では和綿に比べて収量が多く、手触りの良い洋綿を栽培。5月上旬に種まきし、収穫は10〜11月ごろを予定している。多和田さんは「里山の素晴らしさを知ってほしい」と期待を寄せる。

今後、松江、雲南両市内の幼稚園や小学校にも参加を呼び掛ける。森館長は「綿栽培を通じて地域の連帯を深め、地域住民の生きがい創出や新たな特産品化につなげたい」と意気込んでいる。

山陰総合